

PRESS RELEASE

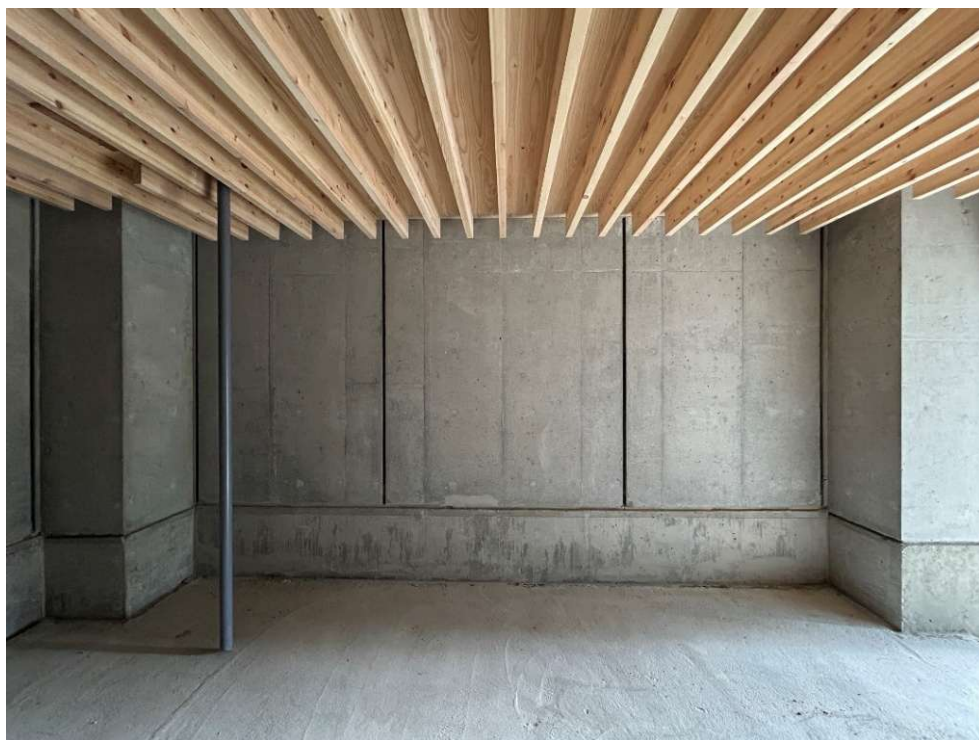
2026年9月4日

RC 床スラブの木質化で脱炭素を推進 「RC×木ハイブリッドスラブ工法」を開発 ～RC 同等の遮音性能と施工省力化を実現～

株式会社長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、代表取締役社長：熊野 聡、以下「当社」）は、この度、RC 造建物の木質化と施工省力化の両立を実現する「RC×木ハイブリッドスラブ工法」（特許出願中、以下「本工法」）を開発しました。本工法は、RC150 mm厚の床スラブと木部材を組み合わせることで、RC200 mm厚の床スラブと同等の遮音性能を確保しながら、環境配慮型の床構造を実現するものです。

また、本工法はモデルプランにおいて、木部材の活用により、CO₂貯蔵量 42kg-CO₂/m²の環境負荷低減効果が期待されます。加えて、床スラブの軽量化（RC200 mm厚比△13%）による建物荷重の低減や、天井施工の省力化による施工効率向上にも寄与します。さらに、木材の温もりや質感を活かした空間づくりにより、入居者や利用者の快適性向上も期待されます。

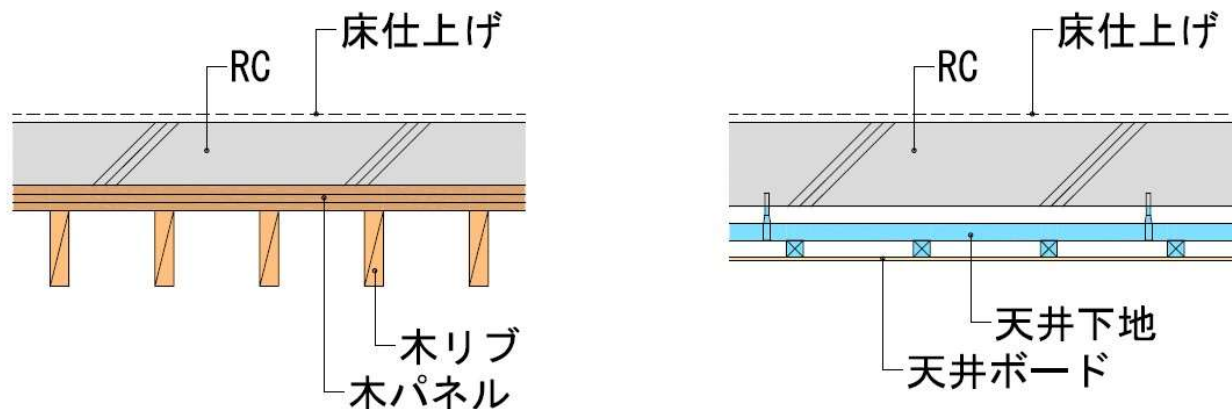
今回、基本性能の検証を完了したことから、当社が事業主・設計・施工を担う賃貸マンション・事務所の新築複合施設「（仮称）横浜市中区本町計画」（RC14 階、2029 年 1 月竣工予定）の事務所階の一部での採用を予定しています。



「RC×木ハイブリッドスラブ工法」の施工例

■本工法のコンセプト

現在の RC 床スラブは、集合住宅等において主に遮音性能（床衝撃音遮断性能）によって厚さが決定されています。本工法は、木部材を型枠兼仕上げ材として用いることで、RC で耐火・構造性能を、RC と木部材の組み合わせで遮音性能と断熱性能を確保するものです。このコンセプトの実現に向け、木パネルとリブ形状（高さ・幅・ピッチ）を検討し、モデルプランを用いた実験室試験、さらには実用化に向けた現場での実証検証を実施してきました。その結果、RC150mm 厚の床スラブと木部材を組み合わせたハイブリッドスラブにおいて、RC200mm 厚の床スラブと同等の遮音性能を確認できました。



左：本工法概念図、右：一般的な RC の床工法概念図

■本工法の特徴

本工法は RC のみの床スラブと比較して、木部材の活用による CO2 排出量削減や CO2 貯蔵といった建物施工時における環境負荷低減効果が期待できることに加え、床スラブの軽量化による建物荷重の低減、天井施工の省力化などの施工効率向上にも寄与します。また、木材の質感を活かした空間づくりにより、入居者や利用者の快適性質向上も期待されます。

■本工法開発の背景

長谷工グループでは、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた「HASEKO ZERO-Emission※」を掲げており、その一環としてマンションの木造化・木質化を推進しています。木造化においては、「木造共用棟」や「木造と RC のハイブリッド構造によるマンション」にて現在展開が進んでいます。また、木質化においては、仕上げ材や下地材など構造体以外の部分に木材材料を採用してきました。今後も「都市と人間の最適な生活環境を創造し、社会に貢献する。」という企業理念のもと、事業を通じた課題解決に取り組み、企業価値向上を目指しながら持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※ <https://www.haseko.co.jp/hc/sustainability/esg/environment/climate-action.html>